

「みんなでスキーを！」

私は8年前に市長に就任したが、その翌年1級を取得。3年後に準指導員、さらに3年後に正指導員になった。この8年間は一言で言えば「大変だったけれど、とっても楽しかった」ということにつきる。というのも全ては時間と体力の戦いだったからだ。今でも私が就任している正・副会長の数は50団体を超え理事を合わせると100は超えてしまう。特にスキーシーズンの新年会には出席する会場も120にのぼる。当然シーズン中の休みはスキー以外あり得ないし、検定の前には4～5ヶ月もの間、毎朝2時間夜1時間の勉強を続けた。よく体調を崩さずケガもしないでここまで続けることが出来た。

全日本スキー連盟基礎スキー指導員・・・
・実に長い間夢に見た憧れの資格だった。

思えば40数年前、私が幼稚園に通っていた頃父に連れられて初めて行ったスキー場は湯沢にある岩原スキー場。あの頃は皮の靴に靴ひもをしっかりと結んで家から履いて出かけた。父が買ってくれた長い板。そう！ストックは竹で、ストラップの部分は皮でできていた。今その時の用具があればきっとスキー博物館に飾ることができるに違いない。

熊谷駅から上越線に乗って雪国へ向かう。遠かった。列車は立錐の余地もなく、出入り口の中央のところ立っていたので、小さかった僕は回りの人の足しか見えず悪戦苦闘をしていた。そんな僕をあるところで父がひょいといき抱き上げ肩車してくれた。「アッ！」という間に景色が変わった。少し恥かしかったが、父の肩はあたたかで大きかったのを今でも覚えている。列車の窓から見た景色はまばゆく美しかった！その瞬間が私とスキーの出会いであった。その後父は私をよくスキーに連れて行って

(財)埼玉県体育協会副会長
埼玉県スキー連盟副会長
東松山市長 坂本 祐之輔

れた。

しかし私が高校生の時、当時43歳で市議会議長を務めていた父が亡くなった。父は市長選に立候補の決意をしていたが病に倒れ「市長になりたかった」との言葉を遺して他界した。その時から私は「市長になる！」ということをして人生の目標においた。

しかし、大学を卒業し、志を成就するにはまず家業の日本料理屋を立て直さなければならない。そのために東京向島の料亭や、四国松山の寿司屋にも修行に行った。「いらっしやい!」「まいどありい!」の私の声は圧倒的に大きく、店の活気を盛り立てた。

ある時、なじみの社長が来店し、「あんちゃんはいつも威勢がいいんじゃないけど、にぎった姿を見たことがねえ。にぎってみい。」と言われ見習だった私は先輩に許可をもらって、握らせてもらった。初めて握ったのはアナゴ。あまりにも緊張して右手から左手にシャリを移した時、シャリがなくなってしまう。その瞬間社長が「アンちゃん、オレの前にシャリ飛んでるけんの。」と言った。以来私はシャリを飛ばすアンちゃんに名が通っていった。とても楽しい思い出である。寿司を握れる市長は他にはいないだろう。その後、家に帰り結婚をし、店を建て直した。

そして32歳で市議會議員選挙トップ当選、36歳で2度目のトップ当選、いつか父の夢が自分の夢にかわり39歳で念願の市長に就任、そして2期目・3期目と無投票当選によって現在を迎えている。

東松山市は障害を持つ人もそうでない人も共に暮らしを分かち合える「ノーマライゼーション」を全ての政策の根幹に掲げる福祉の街である。それはスポーツの分野においても同様である。

私が会長を務める社会福祉協議会では一昨年1台50万円のチェアスキーを購入し、利用をいただいている。今年はさらに初心者利用しやすい、スキー板が2本ついているバイスキーを購入した。障害を持つ人たちはややもすると家にこもってしまいがちだ。美しい大自然の中で思う存分自己実現ができるスキースポーツを少しでも多くの人達に味わってもらいたい。

又、私は雪の無い当市にあって子供達にスキーの経験を積んでもらうために車山高原スキー場にお世話になり、約300人の小学生を対象に2泊3日でジュニアスキー教室を開催している。これも市から240万円の補助を行い30名の指導員と18名の市職員と共に、私が団長として引率している。バス7台でのスキーツアーは圧巻だ。今後は障害を持つ子供達にも呼びかけたい。さらに中学生になって学校行事でスキー教室も行っている。

ところで今私はこの原稿をオーストラリアからの帰路でつづっている。この旅行は市の「夢の翼」事業として障害を持つ方達のために必要なサービスを支援し、海外

に安心して旅行していただくとするものだ。今年は聴覚障害をもつ方達との旅行で、昨日のさよならパーティではなんとも楽しい話題が出た。それは私がスキーの話をしたところ愛好者が10数名もいたことだ。しかもスクールに参加したことは無いが、聴覚障害者を対象として手話通訳者（もちろんスキーができなければならぬが）を間にいれてしっかりと技術を習得したいというのだ。さっそく話がまとまり今シーズンは「坂本市長のレベルアップスキー教室」を実施することになった。しかも1泊2日だ。

スキースポーツはまさに自己実現・自己創造に最適なスポーツである。そして滑る楽しさと共に自然に接し、多くの友人や仲間と一緒に過ごす至福の喜びがある。私は障害を持つ人もそうでない人も、又幼児や高齢者すべての人達が、この生涯スポーツであるスキースポーツを愛好して欲しいと願っている。その案内人としてこれからも自らの人間性を磨き、技術を向上させスキーを続けていきたい。